

# サーサナ

第17号 仏暦2554（西暦2011）年11月25日

---

## 信心とは何か（第1話）

信心とは  
私の身の事実に気づき  
覚りへと歩み続けること

一般に宗教といえ、**「信」**が大切とされています。しかし、それは日常生活でいうところの**「信頼」**や**「信用」**とはまったく違います。信頼や信用の相手は人間であって、そうであるいじょう、どうしても限界があります。深い愛情で結ばれた夫婦といえども、人間であるからにはどこかに欠点があるわけですから、全面的にあてにすることはできませんし、そうしてはならないのです。ですから釈尊は**「他人の言うことをそのまま信じて、その人の言うがままになってはならない」**と教えられました。

これに対して、たとえばキリスト教でいう神は全知全能の絶対者ですから、すべて人間は神の前ではまったくの無力であり、ひたすらに神の愛を願うしかすべがありません。神は人間を愛し、人間は神を**「信仰」**する、という関係です。両者の間には超えられない（超えてはならない）溝が存します。

仏教でいうところの**「信心」**は、**「信頼」**とも**「信仰」**とも違います。**「人を信頼する」**とはいいませんが**「仏を信頼する」**とはいいません。**「神を信仰する」**とはいいませんが、**「仏を信仰する」**とはいいません。信心というのは、**「よく分からないけど、とりあえず信じてみよう」**というような賭けではありません。また、俗に**「イワシの頭も信心から」**とありますが、これは仏教の信心とはまったく違います。信心とはまずもって、はっきりとした確信でなくてはなりません。このような信心は、努力すれば獲得できる、というような性質のものではありません。なぜならば自分の心を自分でコントロールすることはできないからです。それなのに、懸命に信じようとして自分をだましながら無理に信じ込む、こうなると危険です。（次号に続く）

## 法要行事のご案内

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。

### 十二月 成道会（じょうどうえ）

成道会は、釈尊の成道（悟りをひらかれたこと）を記念して行われる法要です。日本では、釈尊は12月8日に成道されたと伝承されています。

\*日 時 12月9日（金）午前10時～11時半【受付開始は午前9時半】

\*内 容 勤行（和文仏教聖典、正信偈）、  
DVD「おしゃかさま」第2巻上映

\*持ち物 『和文仏教聖典』、『正信偈同朋奉讃』（または『真宗大谷派勤行集』）、念珠、肩衣（お持ちの方）、お布施

\*記念施本 『法語カレンダー』（真宗教団連合）、  
『今日のことば』（東本願寺出版部）

\*終了後、本堂にて9日命日の御家族による合同の月忌法要を勤めます。（ご自宅への訪問はありません）

### 十二月 門徒総会・忘年会

上記成道会に引き続き、門徒総会を開催します。この一年間の活動報告及び今後の活動計画についての話し合いをします。皆さまのご意見をお聞かせ下さい。終了後、お齋（忘年会）があります。出席される方は、12月5日までにご連絡下さい。参加無料です。

\*総 会 12時～12時半

\*お 齋 12時半～

### 一月 修正会（しゅしょうえ）

修正会とは、新年を祝い、また求道の決意を新たにするための法要です。家族揃って、初詣を兼ねて本堂にご参拝ください。

\*日 時 1月1日（日）午前10時～正午【受付開始は午前9時半】

\*内 容 勤行（嘆仏偈・和訳正信偈）、年頭法話、仏典童話ビデオ上映

\*持ち物 『和訳正信偈』、『真宗大谷派勤行集』、念珠、肩衣（お持ちの方）、お布施

\*記念品 鏡餅（お子さんには菓子袋）

\*ぜんぜいの接待があります。

\*終了後、本堂にて1日命日の御家族による合同の月忌法要を勤めます。（ご自宅への訪問はありません）

## 二月 涅槃会（ねはんえ）

### 兼 年間物故者追弔会

涅槃会とは、釈尊の入滅（入涅槃＝完全なる安らぎである死を迎えられたこと）を記念する法要です。本法要にあわせて、2011年の間に亡くなられた当寺御門徒を追弔いたします。

\*日 時 2月13日（月）午後2時～4時【受付開始は午後1時半】

\*内 容 年間物故者追弔のことば

勤行（和文仏教聖典、正信偈）

講演「釈尊成道2600年記念大会に参加して」

講師：前田健雄（一心寺副住職、真宗大谷派名古屋教区教化センター研究員）

\*持ち物 『和文仏教聖典』、『正信偈同朋奉讃』（または『真宗大谷派勤行集』）、念珠、肩衣（お持ちの方）、お布施

\*記念施本 『寿命を生きた人 中村久子』（東本願寺出版部）

## 法務休暇等のお知らせ

下記の期日を法務休暇とさせていただきます。

●12月22～24日 ●1月17日 ●2月18日

本堂にて下記のとおり一座読経（総経）いたしますので、ご参拝下さい。なお、忌日に相当しない場合でも、ご自由に参拝していただけます。

○12月21日午前11時 ○1月16日午後1時 ○2月17日午後1時

## 清掃・おみがき奉仕

皆様方のご奉仕をお願いしております。主として、境内の草取りと仏具の研磨です。終了後はお茶とお菓子でおくつろぎ下さい。雨天の場合は仏具の研磨のみになります。

1月12日（木） 午前9時から11時

## 名古屋別院報恩講

12月13～18日は東本願寺名古屋別院の報恩講です。どうぞ御参拝下さい。日程の詳細を記したパンフレットがあります。希望者にお渡しします。

## 会費の納入について

会費の期限が今年までになっている方（宛名ラベルの下に[会費2011年まで]と印字されています）は、会費更新をお願いします。1年で1000円ですが、事務軽減のため、複数年を納入していただくとたすかります。郵便振替00880-4-68473「教心寺」、または現金手渡しで。

### ☆仏事Q&A☆

Q：「永代経」って、どういうことですか？

A：「永代経」という名前のお経はありません。ここでいう「永代」の意味は、「今後永きにわたって、仏法が伝承され、仏徳が讃歎されていきますように」ということです。そして仏法の伝承の為には、寺の護持が必要ですので、そのための経済的基盤強化の意味で「永代経懇志」という名の寄付金をいただいています。

Q：その寄付金は必ず納めなければなりませんか？いくら納めるのですか？

A：寄付金ですので、納めるかどうかは自由です。額は寺によって異なります。当寺の場合、一口10万円をお願いしています。

Q：永代経懇志を納めれば、あとはお寺のほうで故人を供養していただけるわけですね？

A：「供養」とは本来、仏法僧の三宝を敬って香華や供物を捧げることから、崇敬の心は代行することはできません。今日では「供養」と「慰霊」が同じ意味で使われることが多いようですが、仏教には慰霊ということは本来ありません。仏徳讃歎として仏事は執行されます。

Q：では、懇志を納めると、具体的にはどういうことになるのですか？

A：亡くなられたお身内の方の、あるいは御本人でもいいですが、その法名を、本堂の総法名軸に書き入れます。その際に「開闢法要」（お披露目）を執行します。そして毎年5月の「永代経法要」には御家族にお参りいただき、仏法聴聞していただきます。

それから、これは大切なことですが、永代経懇志を納められたら自分たちは仏事を行なわなくていい、ということにはなりません。生きてあるかぎり、少なくともご自宅の仏壇でのお参りは欠かさないでください。

**真宗大谷派 教心寺**（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弍（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 F A X：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>